

令和3年度ごみゼロやまがた推進県民会議産業部会議事録

《日時》

令和4年3月2日（水）13時30分～14時50分

《場所》

Web会議（Zoom）

《出席委員》（※会長、副会長、委員名簿順）

千歳毅委員（会長）、黒澤利宏委員（副会長（部会長））、阿部英弥委員、岩田雄治委員、大江うた子委員、工藤真理委員、庄司里沙委員、丹野善将委員（代理：細川江里子氏）、長谷川正芳委員（代理：山田茂雄氏）、原田周子委員 計10名

《産業部会》

1 開会

2 あいさつ（黒澤部会長）

3 議事（座長：黒澤部会長）

(1) 報告

- ① ごみゼロやまがた推進県民会議各委員の所属団体における活動状況等について
【各委員】（資料1により報告）
【事務局】（欠席委員報告分について、資料1により報告）

(2) 協議

- ① 令和3年度「ごみゼロやまがた県民運動」（職場編）展開方針（案）について
【事務局】（資料2により説明）

<質疑・意見等>

【阿部委員】

今回から食品ロス削減のところで、フードドライブも積極的に導入しようということで、これでよいと思う。

【岩田委員】

非常に昨年度より見やすく、分かりやすくなったと思う。
なお、達成期限などを記載するというのも1つかと思う。

【事務局】

達成する期限や目標については、昨年度策定しました第3次山形県循環型社会形成推進計画という県の計画で定めている。

これは行政計画としての目標だが、ごみゼロやまがた県民会議は県民運動として展開をしていく部分なので、1番上に書いてある、1人1日あたり100グラム減ら

すというところを、1つの目安としていくことを考えている。

【大江委員】

コロナ禍により、会議でもペットボトルが増え、ごみも増えている。

会議でマイボトルなどを持ち歩く人はあまりいないので、そういうところも皆さんでいい知恵を出してほしいと思う。

【事務局】

会議等のペットボトルについて、持っていける方は、マイボトル等を持っていき、ペットボトルの飲み物は辞退するなど、できる範囲で取り組むということで記載している。

実際減らす方法については色々あるが、やはり1人1人の意識を変えていくということになり、こういった県民運動や県として、そういった取り組みを進めていきたいと思う。

【工藤委員】

とても見やすくなった。

新しくできるプラ新法について、旅館業界でもとても関心があるので、もう少し強調していただきたい。

食べきれなかった料理の持ち帰りについて、食品衛生法で持ち帰らないように指導されてきたため当館ではお断りしており、ほかの会員でもそのような旅館が多いため、すり合わせが必要かと思う。

【事務局】

プラスチック資源循環促進法についての関心は、他の業界もそうだと思うので、関連する記述について、この展開方針の中でもう少し強調するような書きかたを検討したい。

食べ残しの持ち帰りについて今年度から実証実験を行ったが、食品衛生との関係では国でも消費者庁、農林水産省、環境省、厚生省で食べ残し対策に当たっての留意事項として公式の見解が出ており、基本的には持ち帰る方の自己責任の範囲ということで、何よりも大事なのはお店側とお客様とのコミュニケーションで、リスクや注意事項などコミュニケーションをとったうえで、お互い納得したうえで持ち帰るという考え方になっている。

県で今年度実証実験を行っているが、そういった注意事項をテイクアウトボックスに記載した形でお店に配布配付し取り組んでいる。

どうしても食べきれないものは、捨てるより持ち帰っていただけるものはいただきたいということで、引き続き食中毒等について十分注意したうえで、意識の醸成も含めて取り組んでいきたい。

【細川委員】

見やすくなってとても良い。

マイボトルは自分でも使っていますが、会議などではなかなかマイボトルを持つての参加はしていなかったなので、もっと浸透していくような雰囲気になると良い。

【庄司委員】

先ほど工藤委員からもあったように、やはり企業向けとして、プラごみの課題が多く残ると感じているので、紙ごみとプラごみの記載を分けて、環境配慮製品の優

先購入の部分は省略して、もうちょっとプラごみの部分を手厚くするのも1つかと思う。

ごみゼロ君の上にあるSDGsのロゴマークが一番上のSDGsアイコンの左側に置いた方が、これがSDGsのアイコンだということも周知できると思う。

【事務局】

プラごみの方を手厚くという意見でしたが、優先購入についても県としてはこれを進めたいという考えもありますので、記載方法を検討したい。

SDGsのロゴマークについては、上の方へ移動したい。

【山田氏】

質問ですが、令和元年度で本県の1日あたりのごみ排出量が922グラムで、全国20位ということだが、これは毎年の傾向で見ると減っているのか、それとも増えているのか。

【事務局】

山形県の場合、令和元年度は20位だが、東北では1番少なくなっている。ただ、近年の状況を見ると、大体920グラム前後でほぼ横ばいであり、事業系ごみは減少傾向にあるが、家庭系のごみがなかなか減らないという状況。

県としては、様々な取り組みを市町村とも協力して、削減に取り組んでいきたい。

【原田委員】

レストランなどでも持ち帰りはダメと言われていたが、最近はパックをくれるところも多くなってきた。そうすると、食品衛生の観念とごみの減量とで、やはりぶつかり合うことはあると思う。うちは仕出しやるので持って帰ってもらうが、旅館やレストランで心を込めて作ったものを、本当に持ち帰れないものなのかということも検討していかなければならないと感じる。

【事務局】

衛生部分のネックもあり、厚生労働省でも先ほど言ったような条件で推進することとなっている。旅館業と飲食業の場合とでは当然違うと思うので、それは業種、業態に応じて、お互いに納得して持ち帰ると、お店側とお客さんの側とで納得して持ち帰るということを大前提にして、県の方でも注意喚起をしていきたい。

【黒澤部会長】

県民運動（職場編）の展開方針案については、私に一任いただき事務局と調整のうえ前向きに修正を行い、総会に提出することとしてよいか。【全委員了解】

【各委員】

異議なし（了承）

② 令和3年度「ごみゼロやまがた県民運動」の活動内容（案）について

【事務局】（資料2により説明）

<質疑・意見等>

【阿部委員】

案のとおりでよい。

【岩田委員】

案のとおりでよい。

【大江委員】

すごくいい案です。

「てまえどり」についてはなかなか難しい状況で、私たちも買い物をして買ったその日に食べるわけではなく、やはりお客さんが奥から持って行ってしまう。てまえどりをがんばらないとちょっと難しいかと思うが、皆さん頑張りましょう。

【工藤委員】

この案でよい。

【庄司委員】

この案でよい。イベント等の周知について、とにかく皆さんに知っていただく広報戦略をしっかり持っていただければと思う。

【細川氏】

案のとおりでよい。

【山田氏】

案のとおりでよい。

【原田委員】

案のとおりでよい。大江委員と一緒に私もてまえどりをやっている。ですから、まずは皆さんに知っていただくということはとても大切なことだと思う。

【黒澤部会長】

来年度のごみゼロやまがた県民運動の活動内容については、概ねこれ沿った形で総会への提出することでよいか。【全委員了解】

【各委員】

異議なし（了承）

(3) その他

【事務局】 展開方針の各団体における周知状況の照会について

4 その他

なし

5 閉会